

シンポジウム
関口文法と現代言語学

2007年3月22日(木), 23日(金)

於 **浜松医科大学** (看護学科棟, 静岡県浜松市半田山一丁目)

主催 浜松医科大学 総合人間科学講座 佐藤清昭研究室
[ベルリン]東西言語文化研究協会

2007年3月22日(木)

9:00より

Harald Weydt „Die Sprachbeschreibung von Tsugio Sekiguchi“
Michaela Oberwinkler „Zur linguistischen Übersetzung aus dem
Japanischen“
池上嘉彦 「認知言語学と関口文法」

14:30より

菅谷泰行 「意味形態論のレトリック」
島憲男 「関口文法と結果構文」
佐藤清昭 「関口存男における前置詞研究 - 意味形態の普遍性 - 」

2007年3月23日(金)

9:00より

江沢建之助 「言語通常態と意味形態」
吉田有 「意味形態『AはBなり』の表現変種 es handelt sich」

14:00より

在間進 「ドイツ語研究の一構想 - 関口存男, 池上嘉彦両氏の影響を受けて -」
小林潔 「関口文法と日本に於けるロシア語教育文法」
宮下博幸 「関口文法とコーパス言語学」

[文書発表] 小川暁夫 「いわゆる虚辞と関口文法: 言語普遍性への示唆」

【展示資料】 関口存男の著作, 収集文例集, ラジオ講座録音テープ, 写真, 筆記原稿, 関口に関する研究書ほか

【本シンポジウムに関する問い合わせ先】

浜松医科大学 総合人間科学講座 佐藤清昭 ☎ 053-435-2228 satgomp@hama-med.ac.jp

【会場までの交通手段】

JR浜松駅北口バスターミナル 13 番ポールより 路線番号 50「医科大学行き」に乗車 約 25 分

趣旨

1990 年 9 月, 東京の慶応大学三田校舎において第 8 回国際ゲルマニスト大会 (IVG) が開催され, それに続く企画として同大学で「関口シンポジウム」が開かれた。このシンポジウムには世界各国から約 70 名のドイツ語専門家が参加したが, これは, 関口存男の業績を海外の研究者に知らしめるという意味で, 画期的な催しとなった。

1994 年には, 関口の最初の研究書である「意味形態を中心とする独逸語前置詞の研究」(1933 年) のドイツ語訳が, ドイツ語学関係の出版で有名なニーマイアー社から出された。

1995 年にはベルリンにおいて, 第 1 回「東西言語学コロキウム」が開かれた。その研究発表をおさめた論文集は, 1996 年に同じくニーマイアー社から公刊された(「言語学史と言語研究。言語形式と言語形態: フンボルト, ガーベレンツ, 関口」)。この書の付録の部では, 関口が収集した膨大な(ヨーロッパ諸語の)文例集が紹介されている。

2006 年春からは, 関口の主著のひとつである「独作文教程」(1939 年) のドイツ語訳が進められており, 2007 年中にはミュンヘンのユディチウム社から出版される予定である。これにより, 世界のドイツ語研究者に最初のドイツ語「総合文法」が提示されることとなる。

これらの事実が示すように, 関口文法はもはや日本のドイツ語学習者のための実用文法にとどまるものではない。それは日本人が世界に誇るべき古今東西に例を見ないドイツ語文法の大研究である。「大研究」というのは, 単に量的な意味だけでなく, 関口独自の言語理論にもとづく大文法体系ということであり, そこには現代言語学の認識につうじる多くの点を認めることができる。

この認識のもと今回、「関口文法と現代言語学」について専門家の意見の交換を行なうシンポジウムを開催する。これは、これまで日本とドイツにおいてそれぞれ自発的に研究し、成果をあげてきた人々が一堂に会し、関口存男研究の「過去と現在」をまとめ、「将来の発展」へ向かおうという意図に基づくものである。

主催は、浜松医科大学の佐藤清昭研究室と[ベルリン]東西言語文化研究協会である。前者には、関口文法の基礎となる文例集をはじめとして、国内外の関口文法研究がつとに包括的に集められている。また後者は、上記の「東西言語学コロキウム」の参加者を中心にして作られた協会であり、関口文法をヨーロッパの研究者に紹介し、その学問的意義を明らかにすることを任の一つとしてきた。

講演と発表は、Harald Weydt, Oberwinkler 両氏がドイツ語で、それ以外は日本語で行う。なお本シンポジウムの内容は、論文集として早い時期にドイツで公刊する予定である。

以上